

高陽根地区 町政懇談会 会議録

1. 開催日時

平成28年10月14日（金） 午後6時30分～8時40分

2. 対象地区・団体

山浦・出戸・中ノ沢・松峯自治区

3. 代表者・参加者

宮澤一一山浦自治区長、長谷川富保出戸自治区長、矢部榮一中ノ沢自治区長、矢部征男松峯自治区長、参加者計29人

4. 開催会場

山浦集会所

5. 町出席者

町長 伊藤 勝、副町長 伊藤要一郎、企画情報課長 大竹 享、建設水道課長 成田信幸、町民税務課長 五十嵐博文、農林振興課長 玉木周司、商工観光課長 伊藤善文、健康福祉課長補佐 渡部栄二、企画情報課長補佐 小瀧武彦、企画情報課情報政策係長 佐藤泰久

6. 代表自治区長あいさつ 宮澤一一 山浦自治区長

皆様にはお忙しい中お集まりいただきありがとうございました。資料にもありますように、事前に、各自治区から町に対して地域課題等を提出しており、回答をいただくこととなります。どうか忌憚のない発言等をお願いし、町からは詳しく説明などさせていただきますようよろしく申し上げます。

7. 町長あいさつ及び町政方針説明

今年度の町政方針、町の地方創生の取り組み、重点事業などを説明。具体的には、人口減少・地域活性化対策の地方創生では、「町の資源の活用」「安心して子どもを産み育てられる環境づくり」「交流人口の拡大」を三つの柱に、活力ある町づくりに取り組む考えで、「町の資源の活用」では、菌床きのこ栽培の拡大による大規模産地化や、町の森林資源を活用した菌床用オガ粉や、チップ・ペレットといった木質バイオマス燃料の生産体制整備などを検討する森林資源活用型新産業づくり計画の策定を進めており、こうした取り組みにより、仕事を創出し、雇用を拡大することが町の産業にとって重要であることを説明しました。

二つ目の「安心して子どもを産み育てられる環境づくり」では、若い皆さんに結婚してもらうためのいわゆる婚活事業をはじめ、結婚祝金10万円の支給、保育所に2人以上入所している場合の2人目以降の保育料無料化、さらに、今年度から出産祝金を第1子目からの支給に拡充するとともに、来年4月の開園に向け認定こども園を整備していることなどを説明。

三点目の「交流人口の拡大」では、多くの人に西会津に来てもらう拠点づくりの取り組みである国際芸術村事業をはじめ、さゆり公園周辺の運動、宿泊施設の有効活用によるさらなる誘客、また、地域にある資源を活用した出戸・岩屋まつりや、極入・大聖歓喜天祭礼など地域づくりへの支援、さらに、地域おこし協力隊の活動等による誘客、移住・定住推進、空き家バンク事業などについて説明。

8. 事業説明

家庭ごみの分け方・出し方について、資料により五十嵐町民税務課長が説明。

9. 地域課題等について

4 自治区から事前に提出された地域課題等に対して、それぞれ担当課長等より回答。内容は別紙のとおり。

10. 意見交換等

[質問等]

山浦の土砂災害危険箇所に関して、3年か4年前に、山浦と中ノ沢の沢が、土砂災害危険区域であると、図面にも記載されています。7月の説明会では、サカイマチの頂上が危ないと、土砂が滑っていると、その後、楡山から本村へ扇型に土砂災害が起きると発表されました。その中には、山浦自治区の避難所である旧学校跡地があります。この避難所が土砂災害危険箇所内となれば避難できなくなります。説明があったように、避難所は、旧奥川中の校庭でもいいですし、雷公園でも結構ですが、自治区には自治区の定められた避難所が必要であると思います。この点について説明をお願いします。何かあった際の避難場所は旧学校跡地と山浦自治区内で確認しています。どこが避難場所として適切なのでしょうか。

[町]

いま正に、そういった所について、町では自治区と話し合っ、ここが一次指定避難所であると看板などを設け、指定していくことが必要であり、これから集落等の単位で、災害時には、まずどこに避難すべきなのか、改めて話し合いながら地元の皆さんと決めていくことにしています。

[質問等]

地域課題の項目の3、町道・林道の集落での維持管理についてですが、出戸自治区では、大出戸から山浦まで草刈り、道路の側溝上げを実施しています。出戸は現在、22戸ですが、高齢化により作業を実施できる人は7、8人しかいません。今後どうやって町道を維持管理していけばいいのか、町からシルバー人材センターにでもお願いしてもらって、何とか助けたいと考えています。町で何かいい考えがありましたらお聞かせください。

[町]

これは、ほかの自治区からも出されている問題です。これからの課題ですが、トラクターなどにアタッチメントを付け、草刈り作業の機械化を図り、オペレーターを確保し、年1、2回実施する形をとっていきたいというのが一つで、もう一つは、やはり集落ごとに、ここまでだったら地元でできるというような、実施できる範囲を自治区で話し合ってもらって、それ以上はできないということであれば、具体的に、町として人夫を工面するとか、あるいは、その後の対応をどうするのか考えていきたいと思いますので、当面そういった形を取りながら実施していきたいと思います。燃料代などそういった問題ではないと言われればそれまでですが、そういったことについても集落で支障があるということであれば、手だてをしていきたいと思います。今後、どのように対処していけばいいのか町として検討していきたいと思います。

[質問等]

松峯自治区ですが、今回、個別案件については、事前に町に出しませんでした。自治区では解決しなければならない課題が沢山あります。この場だけではなく、今後、相談したいこ

と、注意してもらいたいようないろいろな要望が出てくると思います。それらについて、役場のほうで、住民に、また村に、寄り添って真剣に考えていただきたいと思います。

このたび、村の堰が壊れたため、建設水道課に話をし、非常によく対応してもらいました。今日、行きましたら、既に直っていました。しかし、直したという連絡がありませんでした。もう少し住民と密接にコミュニケーションを取ってもらって、説明をもらうなど、町職員には住民にしっかり寄り添ってもらいたいと思います。

[町]

区長さんが不在であれば、メモを置いて帰るなど、今後、連絡について対応していきたいと思います。

[質問等]

ふるさとまつりに出品する作品について、自動車を運転できない人がいるので、奥川みらい交流館や新郷連絡所で作品を受け付け、終わったらまた奥川みらい交流館等で受け取れるといった対応をとってもらえないでしょうか。

[町]

関係課と連絡を取り、奥川みらい交流館に届けてもらえば、出品できるよう対応したいと思います。

[質問等]

サル被害に関して、パトロールに集落に来ますが、家の入口でUターンして帰ってしまいます。上に田があるにもかかわらず、戻って行ってしまいます。このため、サル、イノシシの被害を受けています。奥までのパトロールをお願いします。

[町]

広範囲をパトロールしているため、そういった場合があるかと思います。また、高陽根の場合は、サルに発信器を付けていますので、その電波を拾いながらパトロールしています。なお、しっかり見回るようパトロール員に伝達したいと思います。

[質問等]

同じく、サル関係ですが、西会津には12の群れ、700頭いるとの説明がありました。年間どのくらい駆除をしているのでしょうか。

[町]

平成27年度は、年間で40頭、26年度は95頭、25年度は37頭を駆除しています。ところがサルは畑を荒らして栄養価の高いものを食べていますので、どんどん子どもが生まれ、駆除しても、同じぐらいの頭数があるというのが実態です。毎年駆除しては、今年も実施しています。

[質問等]

実態を見ると、カボチャなどを栽培できなくなっています。このため高齢者の楽しみがなくなってしまうので、しっかりと駆除してもらいたいと思います。

[町]

可能な限り駆除するという方針でありますので、ご理解をお願いします。

[質問等]

高齢者が多くなって、若い人たちがいないと集落が無くなってしまふということが現実になっており、今後、そういう集落が増えることが予測されますが、先ほど説明がありましたように、町ではそのためのいろいろな手だてを取っています。私がフェイスブックを使って、若い人と情報のやり取りをしていると、西会津はおもしろいと、ほかの地域の人が言っていますが、実際に町の若い人たちは、町に魅力を感じ、生き生きと活動しているのでしょうか。

[町]

例えば、西会津国際芸術村でのイベント開催など、フェイスブック等を使って情報発信しています。こういったことが、町外の人から見ると、おもしろいという評価を受けているのだらうと思います。

国際芸術村には昨年度、約 4,000 人が訪れています。その 4,000 人の 6 割以上、7 割近くが町外の人で、このうち約 1,500 人が県外の人です。こうして県外、都市圏の方に人気があるような施設となっています。

また、若者まちづくりプロジェクトの取り組みの中では、ほかから、まちづくりを実践している講師を招いて、西会津の若者が勉強しています。こうした勉強の仕方、独自に町を何とかしようという取り組みは、他の町村には無いので評価を受けており、今後は、プロジェクトから出た人が、各地域でリーダーとなって町を活性化してもらおうという形で3カ年計画でリーダー事業として進めていく予定です。こうしたことも珍しいということで評価を受けています。

それから、奥川で実践されている都市と農村との交流でも来町者が徐々に増えている状況ですので、ご理解をいただきたいと思います。

[質問等]

最近、奥川に若い二人が移住してきました。一人は大舟沢で、もう一人は宮野にです。我々は長男だから仕方なくここにいるわけですが、二人に聞くと、価値観が違って、ここだから来るんだ、という考え方なのです。新たな価値観で田舎を見ているのだとつくづく思っています。その辺が今の若い人は違うのかなと思います。今後も町の取り組みをよろしく願います。